

子どもが自分をつくっていく 「余白」のある学校づくり

～生み出した学校裁量『私の時間』で子どもに育まれる多様な資質・能力～

『私の時間』って？

40分午前5時間授業で生み出した「余白」の時間
何の教科にも属さない大人の基準で評価されない時間

子どもが「自分」を見つける
大人が「その子」を見つける

「自分で決める」ことで「自分を知る」
非認知能力の育ち キャリアデザイン ウェルビーイング

「割り箸で銀閣」

児童にどんなことをしているのか、何に挑戦しているのかを聞くと、やりたいことや興味を持っていることを教えてくれる。自分自身がそのような児童の表情や姿を見ることで、授業等の姿とは別に様々な可能性を感じた。

（11月職員ふりかえり）

「大人」が変わっていく

子どもを理解し続けようとする大人
自身の教育観・学び観・子ども観との対峙

職員の声

職員研修

「私の時間って何？」

教科書や指導要領のゴールを前提としない時間があることで、子どもたち自身の興味と工夫を認めてあげられる場面ができたように思う。教えたり与えたりするのではなく、見守って認めてあげる教師のあり方を模索する時間だった。

（11月職員ふりかえり）

「学校」が変わっていく

自己選択・自己決定のある学びの場づくりへ
私の時間ギャラリー 城山LIVE! 城山フェス(R7構想)

城山LIVE!

「読み聞かせライブ」

明日も行きたくなるような学校を考えた時、子どもの思いや選択が認められ、生かされ、やりたいことができる取り組みは、これからの学校のあり方のヒントになると思いました。

（2月職員ふりかえり）